

学校法人日本社会事業大学（所在地：東京都清瀬市）

事業名	当事者に学ぶ視覚・聴覚障害者のセルフアドボカシープログラム		
------------	--------------------------------------	--	--

研究テーマ	学校から社会への移行期 ○	生涯の各ライフステージ ○	主な対象	視覚障害・聴覚障害・盲ろう
--------------	---------------	---------------	-------------	---------------

事業の趣旨・目的

1. 障害者の権利条約を実現する。（障害者相互による支援・助言、盲人・ろう者または盲ろう者の教育がその個人にとって最も適当な言語並びに意思疎通の形態及び手段で行われること、障害者独自の文化的・言語的同一性の承認。）
2. 当事者をロールモデルとし、当事者ならではの支援・助言を行う。
3. セルフアドボカシーのための生涯学習のモデル的プログラムを実践・構築する。

事業実施体制・連携先

最先端の認知科学や障害学等に基づく実践を行ってきた研究者を研究代表者とし、視覚障害・聴覚障害・盲ろう当事者の弁護士・教授等を連携協議会の委員とした。また障害者支援のコーディネートの専門職と、清瀬市社会福祉協議会・ボランティアセンター長らも連携協議会の委員となり、地元のボランティア活動を促進した。

学習プログラムの内容


- ・ろう者の専門家によるろう者のためのITマスター教材作成
- ・当事者主導の視覚障害者のためのデータ支援者養成
- ・当事者主導の聴覚障害者のための遠隔パソコンテイクナー養成
- ・当事者主導の手話通訳士のスキルアップ
- ・ろう学生が市民に教える日本手話講座
- ・視覚障害者を守る当事者弁護士に学ぶ
- ・ろう者に学ぶバリアフリーパワーポイントの作り方
- ・ろう当事者SW（ソーシャルワーカー）に学ぶSW養成講座
- ・視覚障害当事者に学ぶ当事者ソーシャルワーカー養成講座

研究の成果と課題

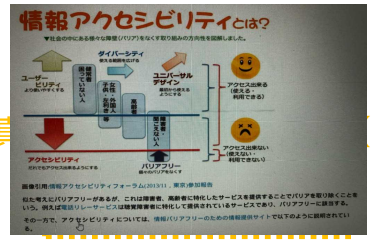
障害当事者の作成したIT教材やバリアフリーパワーポイント作成法教材を公開。オンライン化が進む中、全国から遠隔情報保障を学びたい人が集まったため、当事者に学んだ支援者が多数誕生。さらに、セミナー参加者同士のネットワークを形成。これらを通してセルフアドボカシーの概念を多くの障害者に広めることができた。

今後の展開---セルフアドボカシーを清瀬から全国へ


- ・セルフアドボカシーのための障害者プラットフォームの形成
- ・障害者相互の支援から障害者交互の支援へ（例：視覚障害者の眼になる聴覚障害者活動、聴覚障害者の耳になる視覚障害者活動）



障害者のための災害ソーシャルワーク



情報アクセシビリティとは？



日米手話による動画教材——情報のバリアフリー化——全国の盲人が大集合

その他研究の詳細など

アウトカム教材(研究成果)は
以下URLにアップしています

<https://self-advocacy.themedia.jp/>

